

学校保健委員会だより



令和6年10月1日
安来市立広瀬小学校

コロナ禍を経て、昨年度から参集の形態で会議を行っています。今年度は9月25日（水）に広瀬小学校視聴覚室に委員の方にお集まりいただき開催しました。

★ご出席いただいた委員の方★

学校医：太田原先生（安来市立病院）

俵先生（たわら眼科）

学校歯科医：高橋先生（高橋歯科医院）

学校薬剤師：斎藤先生（さいとう薬局）

保護者代表（PTA 役員）：中村さん・祖田さん・三澤さん

地域代表：北尾さん（広瀬交流センター）

加藤さん（宇波交流センター）

澤田さん（菅原交流センター）

学校：校長・教頭・研究主任・給食主任・保健主事・養護教諭

最初に、養護教諭から今年度の定期健康診断結果についての報告をしました。続いて、昨年度のこの会で、体力についての話題を取り上げてほしいとのご意見をいただいておりますので、研究主任から体育科の学習や体力向上の取組についての報告をしました。その後、それぞれの専門分野やお立場からの意見、提言をいただきました。

広瀬小学校の健康課題として挙げたものを抜粋してお知らせします。

★ むし歯

むし歯がある（むし歯が前にあった）子の割合（り患率）は、国や県の値と比べると、まだまだ高い状態なので、歯科健康教育への取組を今後も続けていきます。特に、入学前からむし歯がある子どもが多いので、小学校での「自分で磨こうとしていく」ための取組が重要です。今年度も給食後のハミガキは、自席に座して全員で一斉に行い、集団での意識を高めていきます。

また、高橋歯科校医先生のご協力により、全児童へのプラークテストの配布を計画しています。昨年度は、9 割以上の児童が取り組み、提出がありました。ご家庭で歯や歯肉、ハミガキの状態をみていただく機会を継続してもっていきます。



学校保健委員会とは…

本校児童の健康保持及び増進に関して PTA 及び地域と協議を行う機関で、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA、学校、地域の代表で構成されています。

広瀬小の子ども健康課題について、専門的立場など様々な角度からの指導助言を受け、毎日の生活に実践的な工夫を提案したり、活動を計画実施したりします。

★ 外遊びとメディア利用

今夏の猛暑・酷暑のため屋外での活動が難しく、外遊びを推奨しにくかったこともあり、屋内でのメディア使用の時間が増えているのではないかとの話題が多くありました。

高齢化などの社会構造上の問題も含み、遊び場そのものがなかったり、ボール使用禁止など子どもの遊びに対する寛容さが低くなっていることなど保護者や学校がすぐに改善しにくい要因が挙げられました。

そのような中でも昨年に続き今夏も、交流センターの活動では川遊びを行い、参加した子どもたちはハンザケ（オオサンショウウオ）を見つけるなどして自然とたわむれ、大いに遊んだとのことでした。このような実体験から「集中して遊ぶことで、心と体が鍛えられ成長する」とのお話をいただきました。



スマホやゲームを介した人間関係が既にあるので、過去には戻れないし、無くすこともできないし、時代に即したやり方をみつけていくことが重要となってくるというお話がありました。今後も継続して家庭や学校がその利用の在り方を模索していく必要があります。学校の教育活動でのタブレット端末などの使用はますます増加していきます。ご家庭でのメディア接触への取組がこれまで以上に重要になります。

裏面にこども家庭庁作成保護者向け普及啓発リーフレット『ネット・スマホ活用世代の保護者が知っておきたいポイント ～こどもたちが安心して楽しく使うために～』から一部を載せます。ご家族でご一読いただき、それぞれのご家庭にあったルールづくりやフィルタリング設定、使用制限などにご活用ください。

紙面の都合上、詳しく取り上げられませんでした。が、「視力低下の低年齢化」「スマホやゲームなどで手元を見る時間が長くなっている」や「スマホ使用による首の変形」「朝から眠そうにしている子どもの睡眠環境」などが話題になりました。今後も、広瀬小学校の子ども健康やかな育ちについて、学校、保護者、地域が一体となって考えていきたいと思ひます。

良い健康行動を継続させることは難しいが、その時、気づいて、「何かひとつでも」「いろいろな」チャレンジのし方があって良いのではないかと提言をいただき、これからの学校保健活動へ向けて勇気づけられました。